

山形県山形市 蔵王観光ホテル



1. 火災の特色

このホテルでは、自動火災報知設備の非火災報が多いためベルを停止しており、設備は正常に作動したにもかかわらず出火時にベルが鳴動せず、火災の発見が遅れ、延焼拡大し、周囲の旅館等7棟が全半焼して、死者11名、負傷者2名を出す惨事となったものである。

2. 出火日時等

(1) 出火日時

昭和58年2月21日（月） 3時過ぎ

(2) 覚知日時（覚知方法）

昭和58年2月21日（月） 3時52分（119番通報）

(3) 鎮火日時

昭和58年2月21日（月） 6時40分

3. 火元の概要

(1) 所在地

山形県山形市蔵王温泉2番地

(2) 火元建物等の名称

(株)蔵王観光ホテル

(3) 火元建物の構造、形態等

① 建築年月

昭和4年頃

② 増改築の状況

昭和35年12月15日別館新築完成検査

③ 建物用途

ホテル(5)項イ

④ 構造

本館 木造モルタル4階建

別館 木造モルタル3階建

⑤ 面積(建築面積、延べ面積)

本館延べ面積 1,596㎡

別館延べ面積 668㎡

計 2,264㎡

⑥ 出火当時の宿泊客数

ア 蔵王観光ホテル 99名

イ 柏屋旅館 83名

ウ 海老屋旅館 10名

計 192名

⑦ 火元建物階層別用途及び床面積

本館

階	面積	用途
4	120.6㎡	客室
3	443.2㎡	客室
2	511.7㎡	食堂、客室
1	520.7㎡	事務室、風呂場等
合計	1,596.2㎡	

新館

階	面積	用途
3	208.7㎡	客室
2	208.7㎡	客室
1	208.7㎡	大広間
地下1	41.9㎡	倉庫
合計	668.0㎡	

⑧ その他

昭和57年12月1日 適マーク交付

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備

屋内消火栓設備、消火器

② 警報設備

自動火災報知設備、漏電火災警報器

③ 避難設備

避難器具、誘導灯

(5) 防火管理の状況

- ① 防火管理者
選任届 昭和56年 3月25日
- ② 消防計画
昭和56年11月 9日届出済
- ③ 避難訓練
昭和57年 9月 7日実施

4. 気象状況

- (1) 天候
雪
- (2) 風位、風速
風位：南西、風速：10～15m/s
- (3) 気温、湿度
気温：－7℃、相対湿度：83%
- (4) 警報・注意報
なし

5. 出火原因

- (1) 発火源
2階「萩の間」トイレ暖房用の電気ストーブから出火したと推定される。
- (2) 着火物
トイレ内側壁等の可燃物（推定）

6. 損害状況

- (1) 人的状況
 - ① 死者 11名
 - ② 負傷者 2名
- (2) 物的損害
 - ① 火元建物
 - ア 棟数 2棟
 - イ 焼損程度 全焼
 - ウ 焼損面積 本館 1,596m²
別館 668m²
合計 2,264m²
 - エ 損害額 308,563千円
 - ② 類焼建物
 - ア 棟数 5棟
 - イ 焼損程度 全焼
 - ウ 焼損面積 1,318m²

7. 火災の経過（火災の様態）

- (1) 出火場所等の状況
経過は不明
- (2) 火災発見の経緯
複数の宿泊者が、萩の間付近で火災に気づいた。
- (3) 消防機関への通報状況
 - ① 2階「すみれの間」の客による119番（第一報）
 - ② 経営者の妻、119番しようとして、山形市消防本部蔵王温泉出張所に電話
 - ③ 3階「つつじの間」の客が玄関の公衆電話の緊急ボタンを押した。
- (4) 初期消火の状況
 - ① 客2名、従業員1名計3名が消火器で消火作業をしている。
 - ② 従業員が1階従業員室前の屋内消火栓設備を使用、ホースを伸ばし、2階で放水、後退して1階から階段に放水、さらに玄関から外に出て2階に向け放水した。
- (5) 死者の状況
火元建物の1階で6名、2階で4名、3階で1名計11名が、うつぶせの状態で見られているが、死因はCO中毒によるものである。
- (6) 避難の状況
自動火災報知設備のベルが鳴動せず、また館内放送等も行われなかったため、避難行動が遅れたが、計86名の宿泊者が自力で屋外へ避難した。
- (7) 自衛消防隊の活動状況等
 - ① 避難誘導の状況
 - ア 新館（別館）にいた客を体育館へ誘導。
 - イ 新館（別館）の1、2階の客を体育館へ誘導
 - ウ 本館2階から下りてきた客をフロントに誘導さらに別館に行き廊下の客を窓から外へ出し体育館へ誘導
 - エ 本館2階の客3名を玄関から外へ誘導
 - オ 別館1階から2、3階に火事を知らせ客全員を体育館に誘導
- (8) 火災拡大の状況
 - ア 火元建物が木造であったこと。
 - イ 気象条件の影響（吹雪・風速10～15m/s）による。
 - ウ 自動火災報知設備が鳴動せず、発見が遅れた。
 - エ 避難の経路が複雑で本・別館を連絡する廊下が煙突のような状態となり、延焼拡大の原因となった。

8. 消防機関の活動状況

- (1) 出動状況
 - ① 出動車両

消防署	消防ポンプ自動車	10台
	工作車	1台
	救急車	2台
	指令車	1台
	作業車	1台
	広報車	4台
消防団	小型動力ポンプ	17台
職員	計	36台

② 出動人員

消防職員 77名

消防団員 184名

計 261名

(2) 消防機関の消火・救助活動の状況

先着隊は火元観光ホテル本館、別館の渡り廊下西側及び別館の消火活動を行った。また後着隊は、海老屋旅館への延焼をくい止めた。さらに風下にある火元3階建別館及び柏屋旅館の延焼防止に当たった。南西の風が強く(10~15m)、気温も-7℃であり、約2mの積雪により、消火活動は困難であった。

9. 問題点・教訓

- (1) このホテルは、適マークが交付されていたにもかかわらず、自動火災報知設備のベルのスイッチが切られていた。また、従業員による避難誘導が適切でなかった。
- (2) 自動火災報知設備の非火災報対策については、非火災報対策を講じたシステムとするよう指導する必要がある。
- (3) 旅館・ホテル等における夜間の防火管理体制指導マニュアルに基づき、防火管理体制について、指導する必要がある。

10. 資料

図-1：配置図

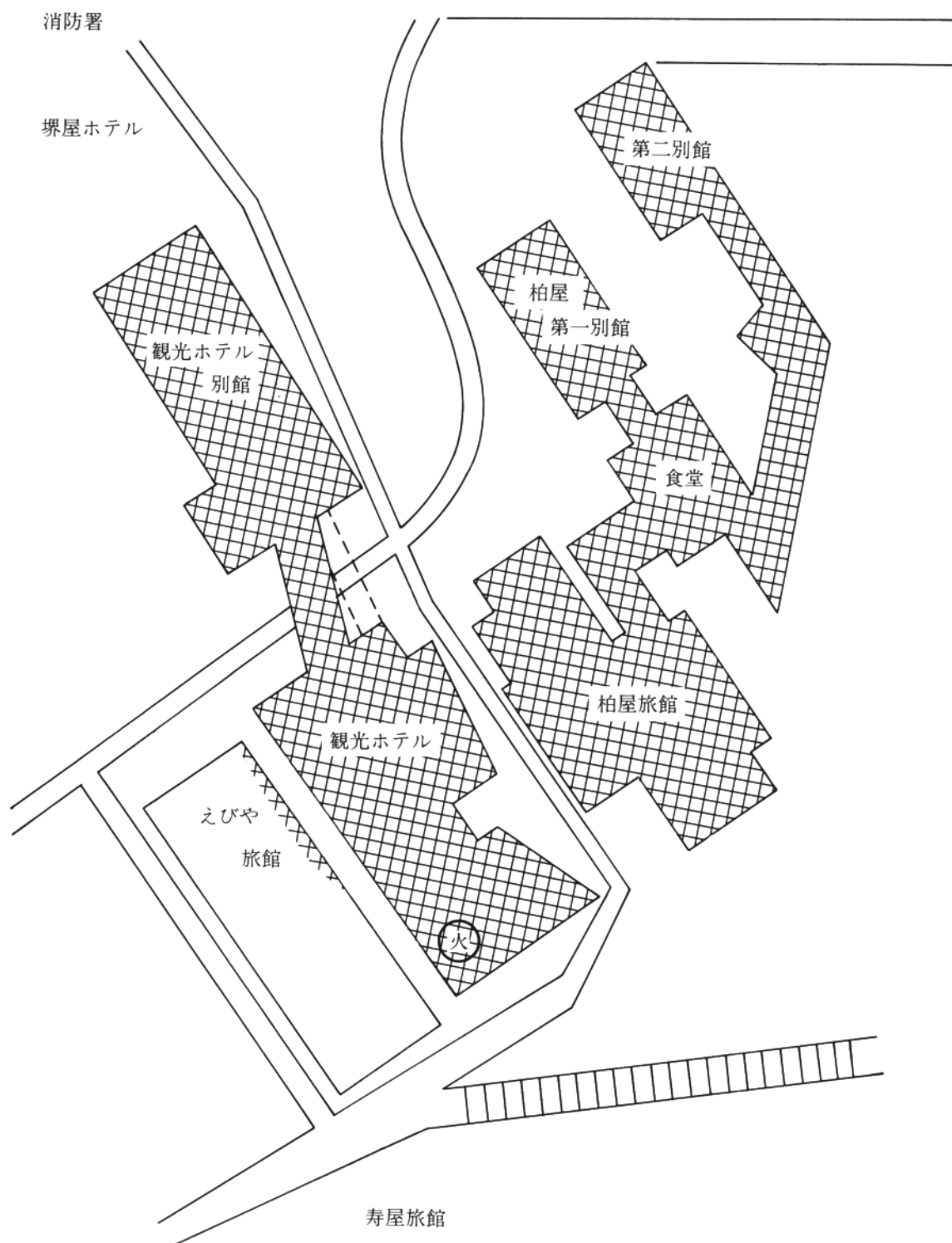


図-2：本館1階

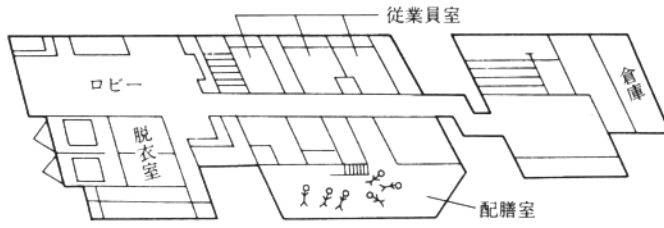
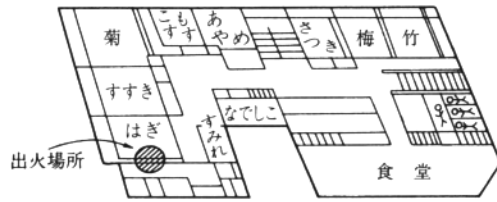


図-3：本館2階



別館1階

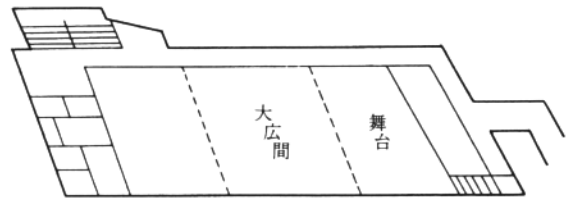
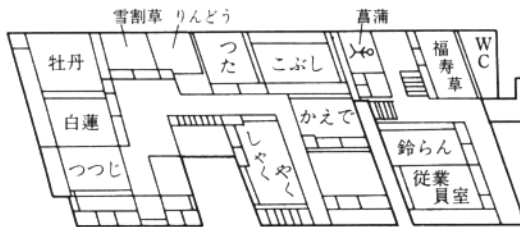


図-4：本館3階



別館2階

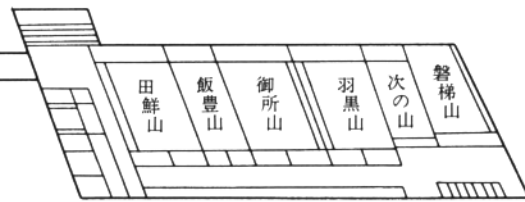
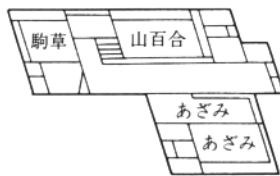
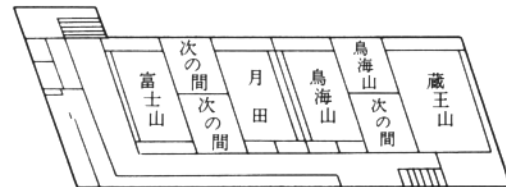


図-5：本館4階



別館3階



○ 死者の位置